平成　21　年度　**事務事業マネジメントシート**　作成日　平成　21　年　8　月　31　日作成

事務事業名	コード 34100	家畜防疫対策事務			
政策名	総合計画体系 03	地域を活かし魅力ある煌めくまち	所属部	産業観光部	所属課 農林振興課
施策名	02	産業の振興	所属係	農業振興担当	課長名 新居　大典
基本事業名	01	農林業の振興			電話番号 72-7617 （内線） 771-145
予算科目	会計 01 / 款 5 / 項 1 / 目 5	畜産振興費	法令根拠	三好市農林水産業振興事業補助金交付要綱	
事業期間	☐ 単年度のみ　☑ 単年度繰返　☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 （開始年度　不明　年度 ～ ）（　年度 ～　年度 ）				

事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

家畜伝染病予防の啓発、愛玩鳥飼育者（希望者）への鶏舎消毒薬の配布。鳥インフルエンザ等伝染病発生時の対応。
1. 三好市内の畜産農家、主に肉用牛・肉用豚繁殖経営をしている農家を対象に牛アカバネ病の予防注射に対して助成する事業である。アカバネ病とは、アカバネウイルスが原因で、蚊などの吸血昆虫によって伝播するもので、成牛に感染しても何の症状も出ないが、妊娠牛に感染すると流産や死産を起したり奇形子牛がうまれたりする病気である。
2.予防注射頭数のとりまとめをする。頭数分のワクチンに対し市補助金を交付する。
3. 補助金　300,000円

全体計画（期間限定複数年度のみ）　（単位；千円）

総投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金
			都道府県支出金
			地方債
			その他
			一般財源
		事業費計（A）	0
	人件費	正規職員従事人数	
		延べ業務時間	
		人件費計（B）	0
	トータルコスト(A)+(B)		0

1　現状把握の部（DO）

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）

20年度実績（20年度に行った主な活動）
愛玩鶏飼養者（希望者）への消毒薬配布、愛玩鶏飼養者へのインフルエンザ予防の啓発（市報、CATV）、発生時対応

21年度計画（21年度に計画している主な活動）
同上

② 対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等
市内愛玩鳥飼育者

③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）
家畜伝染病を未然に防ぎ、安定した経営を維持できるようにする。また万一伝染病が発生した際にも、迅速な対応により被害を最小限度に抑える。

④ 結果（どんな結果に結び付けるのか）
・農業の担い手の確保。
・地域農業環境の保全及び耕作放棄の発生防止。

⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	消毒薬配布数	本
イ		
ウ		

⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	消毒薬配布数	本
イ		
ウ		

⑦ 成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア	鳥インフルエンザ予防鳥数	羽
イ		
ウ		

⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）数字は記入しない

	名称	単位
ア		
イ	認定農業者数	経営体
ウ		

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度（実績）	19年度（実績）	20年度（実績）	21年度（見込）	22年度（成行予測）	23年度（成行予測）	24 年度（成行予測）
投入量 事業費 財源内訳	国庫支出金	千円							
	都道府県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円							
	一般財源	千円	154	180	185	300	330		
	事業費計（A）	千円	154	180	185	300	330	0	0
人件費	正規職員従事人数	人	6	6	6	6	6	6	6
	延べ業務時間	時間	240	240	240	240	240	240	240
	人件費計（B）	千円	912	912	912	912	912	912	912
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,066	1,092	1,097	1,212	1,242	912	912
活動指標	ア	本	31	34	35	35	35		
	イ								
	ウ								
対象指標	ア	本	31	34	35	35	35		
	イ								
	ウ								
成果指標	ア	羽	162	542	483	500	500		
	イ								
	ウ								
上位成果指標	ア								
	イ	経営体	75	75	78	80	81		
	ウ								

事務事業名	家畜防疫対策事務	所属部	産業観光部	所属課	農林振興課

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

平成18年3月1日施行(平成18年度事業から適用)
家畜伝染病法に基づき市内家畜農家・愛玩鳥飼育者の家畜(鳥)伝染病を未然に防ぐため。

② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

家畜伝染病法に基づき継続実施する。

③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

鳥インフルエンザ発生時の対応マニュアル整備

2 評価の部（SEE）＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市（町）の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 結びついている ⇒【理由】 畜産の振興については、家畜伝染病を未然に防ぐことによって、安定した経営を維持できる。愛玩鳥飼養者のインフルエンザ予防により安定した経営と市民の安全対策につながる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市（町）が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 妥当である ⇒【理由】 家畜伝染病を未然に防ぐことにより、家畜の振興につながる。市民の安全対策につながる。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 適切である ⇒【理由】 家畜伝染病予防法に定められた方法により実施するものであり、現在の取り組みでよい。（消毒薬の配布）
有効性評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 向上余地がない ⇒【理由】 家畜伝染病予防法に定められた方法により実施するものであり、効率性を高める余地はない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 影響有 ⇒【その内容】 畜産農家・愛玩鳥飼育者の負担を軽減することにより、予防ができる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには，この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある （具体的な手段，事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 削減余地がない ⇒【理由】 予防消毒薬の取りまとめ事務・配布作業 鳥インフルエンザ発生時の対応
	⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 削減余地がない ⇒【理由】 徳島県農林水産部畜産課・徳島県西部家畜保健衛生所が担当課 市は現在の正職員で徳島県の補助
公平性評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 公平・公正である ⇒【理由】 市内家畜農家・愛玩長飼育者を対象としているので公平・公正で問題ない。

事務事業名	家畜防疫対策事務	所属部	産業観光部	所属課	農林振興課

3　評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）（PLAN）

(1) 1次評価者としての評価結果

① 目的妥当性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
② 有効性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
③ 効率性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
④ 公平性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括（振り返り、反省点）

市内の防疫体制を強化し高病原性鳥インフルエンザの防疫演習の実施

(3) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止　☐ 休止　☐ 目的再設定　☐ 事業統廃合・連携　☐ 事業のやり方改善（有効性改善）
☐ 事業のやり方改善（効率性改善）　☐ 事業のやり方改善（公平性改善）
☑ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

県・市・畜産農家が一体となった体制を構築する。

(4) 改革・改善による期待成果
（廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	×
	低下		×	×

(5) 改革，改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

家畜伝染病法に定められた方法により実施するものであり、当面効率性を高める余地はない。